

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「放課後子ども教室推進事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

市内小学校区において、公共施設等を活用し、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため平成25年度に和渚小学校区をモデル地区として開始した。



和小っ子クラブ
(灯籠制作)



チャレンジキッズinこうよう
(テラリウム制作)



放課後子ども教室Bremen
(お話し)

内容

◎和小っ子クラブ(平成25年度より実施)

実施17回。1年生から6年生までを対象として年度初めに参加者を募集し、木曜日の放課後に地域ボランティア等を講師として体験活動を行った。今年度もコロナ感染症対策を行いながら隔週での実施となった。

◎放課後子ども教室Bremen(平成29年度より実施)

実施35回。NPO法人放課後こどもクラブBremenが主体となって、体験活動や創作活動などを行った。

◎チャレンジキッズinへびた(令和4年度より実施)

実施10回。MKSC2012が主体となって、学習支援やスポーツ活動、多様な体験活動を行った。毎回、専門家を招聘し、子どもたちの興味・関心を高めながら有意義な活動を実践した。

◎チャレンジキッズinこうよう(令和5年度より実施)

実施10回。MKSC2012が主体となって、学習支援やスポーツ活動、多様な体験活動を行った。

ポイント

- ①和小っ子クラブとチャレンジキッズinへびた&こうようは年度始めに参加児童を募集し実施。異学年交流を図り、班を編成し活動する。
- ②Bremenの活動は実施ごとに参加者を募って活動する。
- ③コーディネーターが中心となり、ボランティアの役割を明確にして活動する。

成果

地域の中で子どもたちに様々な体験・交流・学習活動の機会を提供することにより、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育むことができています。異年齢交流の場にもなっており、人とのかかわり方や思いやりの心等を学ぶ場にもなっています。

子どもたちのために、遊びや体験活動等を計画し、地域コミュニティの充実を図りながら安心・安全に活動できる居場所を提供することができた。

◇石巻市放課後子ども教室実施回数・参加者数(2月末現在)

※()は令和5年度

事業名	実施回数	児童		ボランティア	
		登録者数	平均参加者数	登録者数	平均参加者数
和小っ子クラブ	17回	22人(17人)	20.8人(13.8人)	18人(18人)	10.3人(10人)
子ども教室Bremen	35回	回ごとに募集	12.5人(12.7人)	16人(14人)	4.6人(4.1人)
チャレンジキッズinへびた	10回	28人(20人)	22.9人(14.3人)	12人(11人)	4.2人(3.4人)
チャレンジキッズinこうよう	10回	17人(17人)	13.7人(11.8人)	20人(18人)	5.5人(5.6人)

今後の方向性

- ・子どもたちに多様なプログラムを提供できるように、地域人材の活用の他、関係機関との連携を図った取組を模索する。
- ・各地区で持続した取組ができるように、ボランティアの確保に努める。また、他地域での教室開催へ向け、人材の発掘に努める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「塩竈市放課後子供教室」(宮城県塩竈市)

取組の概要や経緯

令和3年度からのコミュニティ・スクール導入に合わせて、市内小学校の子供たちの安心・安全な居場所づくりを目的に、放課後子供教室を開設し、令和4年度、市内6校に開設した。

放課後子供教室支援員の他に、体験活動の講師、学習支援、見守りなどにおいて、地域の方々の参画を得ながら活動の充実を図っていく。

内容

子供たちは、地域の方々や保護者などの学習支援や見守りの支援により、宿題や自主学習に取り組む。

また、毎月一度、地域で活躍する方や団体等の協力により、運動、創作、遊びなどの体験活動を実施する。

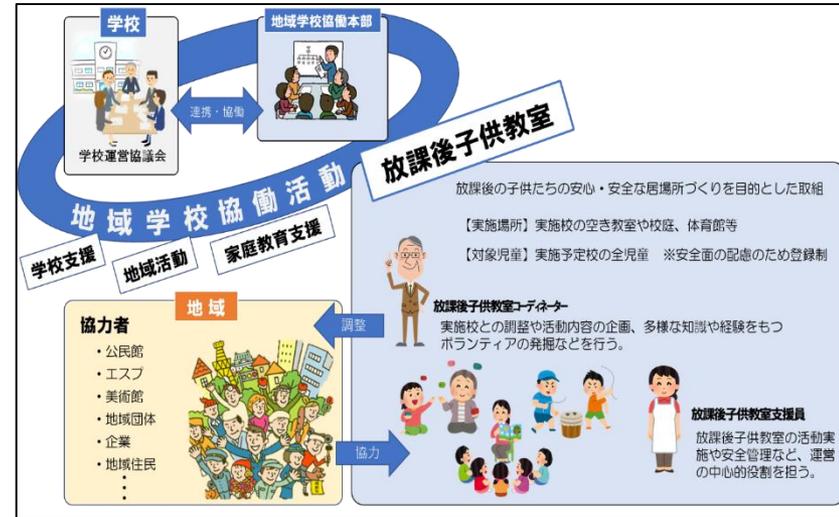
地域住民との交流活動等の機会により、地域で子供たちを育む環境を充実させ、子供たちの学びを支えていく。

ポイント

- 宿題をするだけでなく、遊びの時間では読み聞かせやクイズ、折り紙、昔遊び等に取り組んでいる。
- 活動内容は、子供自身が選択する。
- 放課後子供教室コーディネーターが体験活動の企画をしている。

成果

- ・みんなで学ぶ環境と雰囲気があり、同級生同士や異年齢による教え合いがある。
- ・遊びの時間では、各自が興味のあるものに取り組むことができ、子供たちの主体性が育まれている。
- ・コーディネーターや支援員が地域住民の参画を促すことで、協力者が増えるだけでなく、地域住民の生きがいの場となっている。
- ・体験活動へ市民サークルが講師として参加。活動の披露の場となるとともに地域住民との交流の場となっている。



今後の方向性

- ・各校の学校運営協議会や地域学校協働本部との連携
- ・地域コーディネーターによる幅広い地域住民、団体などの参画の調整
- ・学習支援ボランティアの確保

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域の力でつくる子どもたちの放課後」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

平成17年度に斎川小学校区で「地域子ども教室推進事業」として行ったのを始めに、児童クラブへの移行、小学校の統廃合を経て、令和6年度は市内3小学校区で実施している。地域住民がコーディネーター、スタッフとして活躍している。



内容

市内子ども教室を総括する「コーディネーター」を配置し、活動を充実させている。平成30年度からは、**児童クラブ校内交流型、連携型**を実施している。連携型の放課後子ども教室は閉校した学校の行事として行われていた伝統文化体験を、統合した小学校の子ども教室で体験活動として行っている。校内交流型の教室は、学習支援、運動遊び「ムーブメント」、絵本の読み聞かせ、造形活動、など様々なプログラムを実施している。

コロナ禍により、子どもたちの体験の場が減っている状況のなか、感染対策を徹底し、各教室が地域の特色や実情に合わせて、特色あるプログラムを実施することで、子どもたちの放課後の居場所づくりを行っている。



ポイント

- ①各教室ごとに**地域の伝統文化や人材を活かし**、特色あるプログラムを実施した。
- ②スタッフ会議を実施し、スタッフ同士の**感染対策と危機・安全管理対策**の共有を図った。



成果

- ・特色あるプログラムを体験することで、家庭内での子どもと保護者のコミュニケーションにつながった。
- ・安全管理、子どもの発達など課題を話し合い、共通理解を図ることで子どもたちだけでなくスタッフにとっても安心・安全に活動できる場がつけられた。
- ・地域の活性化や地域住民の生きがいがいづくりに繋げることができた。



今後の方向性

- ・継続的に活動を行うためにスタッフや学校との連携・協力体制を確認しより強化していく。
- ・新たなスタッフの育成や子ども教室をより多くの方に知ってもらうよう努める。
- ・子どもたちにとって安心、安全な居場所づくりを心掛ける。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「できることを、できるときに、できるところから、みんなで育もう栗原っ子」(宮城県栗原市)

取組の概要や経緯

○放課後の小学校を活用し、子供たちの居場所を設けるとともに、地域の方々の協力を得て、地域に根ざした多様な体験活動や地域住民との交流活動の機会を提供することで、子供が自ら学ぶ力を身に付け、地域で子供を育む環境を支援している。

内容

○地域人材を活用して、多様な体験活動を実施している。特に、こちらから与えるだけの支援ではなく、子供達が自ら試行錯誤をして主体的に取り組める内容とした。

ポイント

- 今年度は栗原市家庭教育支援チームに協力をいただき、6月から11月にかけて、鶯沢小学校を会場に、短時間で簡単にできて遊べる物づくりを実施した。
- 授業時間とスクールバスとの関係から、1・2年生だけの児童の参加となったが、合計7回の実施では、のべ96人が参加してくれた。
- 講師として、元大崎生涯学習センターの社会教育指導員から、物づくりのアイデアを提供していただき、実際に指導もしていただいた。
- 実施後には、家族や友だちとも楽しめるよう、作り方を記載した紙を配布した。

成果

- 参加した子供達からは、全員が「とても楽しかった」と感想を寄せてくれた。大変好評だったので、参加した1年生9名は「来年度も絶対参加する」と意欲満々であった。
- 持ち帰った工作物や作り方の紙をもとに、保護者や兄弟と物づくりをしたとの声も聞かれ、家族のふれあいにも寄与することができた。

今後の方向性

○開催日は金曜日に固定し、開催回数は7回で、今年度と同様に1・2年生を対象として設定する。新2年生の子供達がアクティブな動きを好むので、ニュースポーツ体験を4回、物づくり体験を3回として、提供していく予定にしている。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「大河原町放課後子ども教室推進事業」(宮城県大河原町)

取組の概要や経緯

○放課後や週末等に子どもたちの安全安心な活動拠点を設け、地域の方の参画を得て、子どもたちの学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等を実施することにより、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する事業である。本町では平成17年度から実施している。

内容

町内3小学校区で実施

- 大河原小学校放課後子供教室(小学1～3年生) 25回開催
学習支援、講師による特別教室
- 大河原南小学校放課後子供教室(小学1～6年生) 66回開催
ACP活動、伝統文化継承活動、野外体験、クリスマスツリー作り、茶道体験、百人一首体験ほか
- 金ヶ瀬小学校放課後子ども教室(小学1～3年生) 36回開催
ハンドベル・トーンチャイム演奏、和太鼓演奏、科学実験教室、七夕飾り作り、百人一首体験、餅つき大会ほか

ポイント

- ①町内すべての小学校区で実施されており、スタッフも様々な特技を持った人材が揃っている。
- ②各教室のスタッフが集まり、情報交換や事業の反省を行うスタッフ会議等を開催し、各教室でのプログラムの充実化を図っている。
- ③年度末に児童・保護者を対象にアンケートを実施し、その結果を各小学校に提出・共有し、連携してよりよい運営に努めている。

成果

- 大河原小学校放課後子供教室(ほうかご寺子屋)
宿題や自主学習等の学習支援を実施するほか、レクリエーション活動や科学実験教室を行い、学習習慣の定着や学校への行き渋りが軽減されたことと好評を得ている。
- 大河原南小学校放課後子供教室
NPO法人キハト会に業務委託し、幅広い体験活動や交流活動を行っている。また、エコ活動(ごみ拾い・分別)や防災学習も実施している。
- 金ヶ瀬放課後子供教室
地域の人材を活かしたプログラムや県南中核病院への七夕飾りの寄贈等をとおし、地域と結びついた活動を実施している。



今後の方向性

- 多彩な体験型プログラムや野外活動の充実を図る。
- スタッフの高齢化や固定化が進んでおり、コーディネーターを含めたスタッフの後任育成や選考、運営体制の見直しを検討していく必要がある。
- 参加児童や保護者アンケートの回答を基に、それぞれの小学校区で行っている特色を活かし、内容の見直しや充実を図っていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」(学校を核とした地域力強化プラン) (学び支援コーディネーター等配置事業)の取組事例

「亶理町放課後子供教室『放課後楽校』」(宮城県亶理町)

取組の概要や経緯

東日本大震災後、町内の各小学校や近接する社会教育施設を主な会場として、在校するすべての児童を対象にした取組を再開・新設している。

地域住民や各地区交流センター、各まちづくり協議会員等、様々な立場の方が参画し、活動ボランティアとして企画・実践を行っている。



内容

- 各校に2～3名ずつ、コーディネーターを配置し、地域住民等と共に、年間15回の活動内容を検討し、放課後の時間に参加申込みをした児童(各校30名程度)と様々な体験活動を行う。(レクリエーション、制作活動、昔遊び、ニュースポーツ、陶芸、料理、書道、読み聞かせ 等)
- 各教育活動推進員が作成した計画書を基に児童と楽しく関わりながら実践する。
- 年3回、「コーディネーター会議」を実施し、各地区コーディネーターが活動内容を紹介し合ったり、課題解決に向けての様々な情報交換を行い、より良い活動ができるよう地区を超えて連携を図る。



ポイント

- ①参加児童に多様な体験ができるように、毎回工夫を凝らした多様なプログラムを計画
- ②様々な趣味や特技を有している地域住民の自己実現の場の提供
- ③地域住民が主体的に協働することを可能とするコーディネーターの存在
- ④よりよい事業運営の実現を可能とするコーディネーター会議の実施
- ⑤行政や地区交流センター、まちづくり協議会と連携した多様な学びの機会を提供する。

成果

- ・活動ボランティアとして参加している多くの住民が、事業の趣旨を深く理解し、地域コミュニティの再生や児童育成への思いに対して高まりや深まりが感じられる。(R6調査:スタッフとして「活動に参加して良かった」との回答が100%)
- ・学校や家庭では味わうことが難しい多くの体験活動に取り組めるため、参加児童は、大きな満足感が得られるだけでなく、他学年児童やスタッフ等との人間関係の広がりも見られた。(R6調査:「活動に参加して良かった」と回答した児童が98%、保護者100%)

今後の方向性

- ・現在、町内に6校ある小学校のうち5校で開校。残り1校は、小規模特認校の特性を生かし、本事業で連携を強めた地域人材を紹介し活動の幅を広げたい。
- ・行政や各地区交流センターや各まちづくり協議会との連携を一層充実させ、「地域学校協働本部」にて育みたい子供像の共有化を行う。
- ・児童館や放課後児童クラブとの連携も一層充実させ、各校の実情に応じた合同活動の実施を重ね、一体的運用の取組を充実させる。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「まつしま放課後子供教室」(宮城県松島町)

取組の概要や経緯

- ・放課後等の児童の安全・安心な活動拠点を確保し、児童の健全育成を推進するとともに地域の活性化を図ることを目的に実施。
- ・「体験遊び」「学習支援」を実施。今年度は児童・保護者のニーズを踏まえ、「体験遊び」に比重を置いた活動内容とした。

内容

- ・町内三つの小学校で、各校を会場に月曜日に開催(各校年間7回設定)。また、2回の3校合同イベントを実施した。
- ・宿題や自主勉強を行う「学習支援」と、地域の教育資源や「みやぎ教育応援団」等を活用した「体験遊び」を実施。活動を通じて、児童の多様な体験活動機会を確保し、松島の地域や文化に愛着を持つことができるよう工夫した。
- ・午後4時までは自由下校。午後4時30分まで参加する児童は、保護者の迎えがある場合のみ利用できる。



伝統芸能体験(和太鼓)



科学実験(おてんきぼうさいワ)



SUP体験



JAL紙ヒコーキ教室



よさこい体験



ジュニア・リーダーと遊ぼう

ポイント

- ①「体験遊び」では「伝統芸能体験」「JAL紙ヒコーキ教室」「よさこい体験」「科学実験」を行った。また、「学習支援」の際に行った地域サークルによる「読み聞かせ」(低学年向け)や夏休み中に実施した「SUP体験」など、地域の教育資源(人材、文化など)に楽しみながら親しむことができるよう工夫した。
- ②「3校合同イベント」を開催し、ジュニア・リーダーの主導でレクリエーションやスポーツ、工作を実施した。活動は学校・学年混合でのグループワークとし、学校の垣根を超えた交流が生まれた。

成果

- ・今年度より、年間計画策定の段階から活動スタッフに関与してもらうことで、「自分事」としてスタッフが活動に参加する機運が醸成された。
- ・「体験遊び」に積極的に外部講師を活用したことにより、持続可能な事業運営体制になった。また、活動内容が多様化したことにより登録者の参加率が向上し(昨年度比+12.3%)、参加児童の満足度が高い活動を行うことができた。
- ・活動内容に関わらず、教室の序盤で宿題を行う時間を設けたことで、メリハリをつけて活動することができた。また、アンケート調査では全ての保護者が「放課後子供教室に参加することで子供たちの安心・安全な居場所が確保された」と回答した。

	合計
実施回数	23回 (前年比-1回)
延べ参加者数	513人 (前年比+38人)
平均参加者数	22.6人 (前年比+2.7人)
平均参加率	74.6% (前年比+12.3%)
令和6年度実績(登録者数:89人)	

今後の方向性

- ・今年度は登録児童の保護者がスタッフとして加わったほか、後期からは部活動が休みのジュニア・リーダーも受け入れたことにより、運営体制が確保されつつある。引き続き広報紙等による周知や保護者への声かけなどを行い、より多くの地域住民が参画していける体制を整えていく。
- ・児童のニーズを捉えつつ、地域人材や外部講師、地域資源の活用を図りながらより魅力的で充実した体験活動の機会確保を図っていく。
- ・引き続き、スタッフ対象の研修会を開催し、人材育成にも力を入れていく。